

丁未春
新板

依
文
庫
正
編

樓

錦
六

上

~ 13
3785
9



釋迦八相倭文庫五編上

四年未春新版

元大坂町代地

上洲屋重藏板

門 13
號 3785
卷 9

應賀作

一陽齋

豐國画



釋迦八相倭文庫五編の叙
 夫大盡の大赦顔の悪むべし味増汁のみそ臭の嫌ふ下
 佛身の臭の厭むるに什麼當世の大看官の浮世ふりて
 堂宮詰の晴小袖も恋を七分で劇場が二分持一分が絶不
 心さるる此冊子の巻もその縁の細不耽と合附仏の香
 猶極楽へ行且地獄の呵責を受まても穢土へ無
 跡ふとひ色と酒との敵ふ遇とあふ其も亦予本望
 たらんと怯ぬ顔ゆく云々あり

弘化四丁未年初春發市

万亭應賀識



まろく
摩羯國の魔王法性妙顯

優陀夷の大臣

卷之五



提婆達多
魔界外道
疾鬼とかん
速疾鬼とかん
乗心達太子と
妨ん
とま

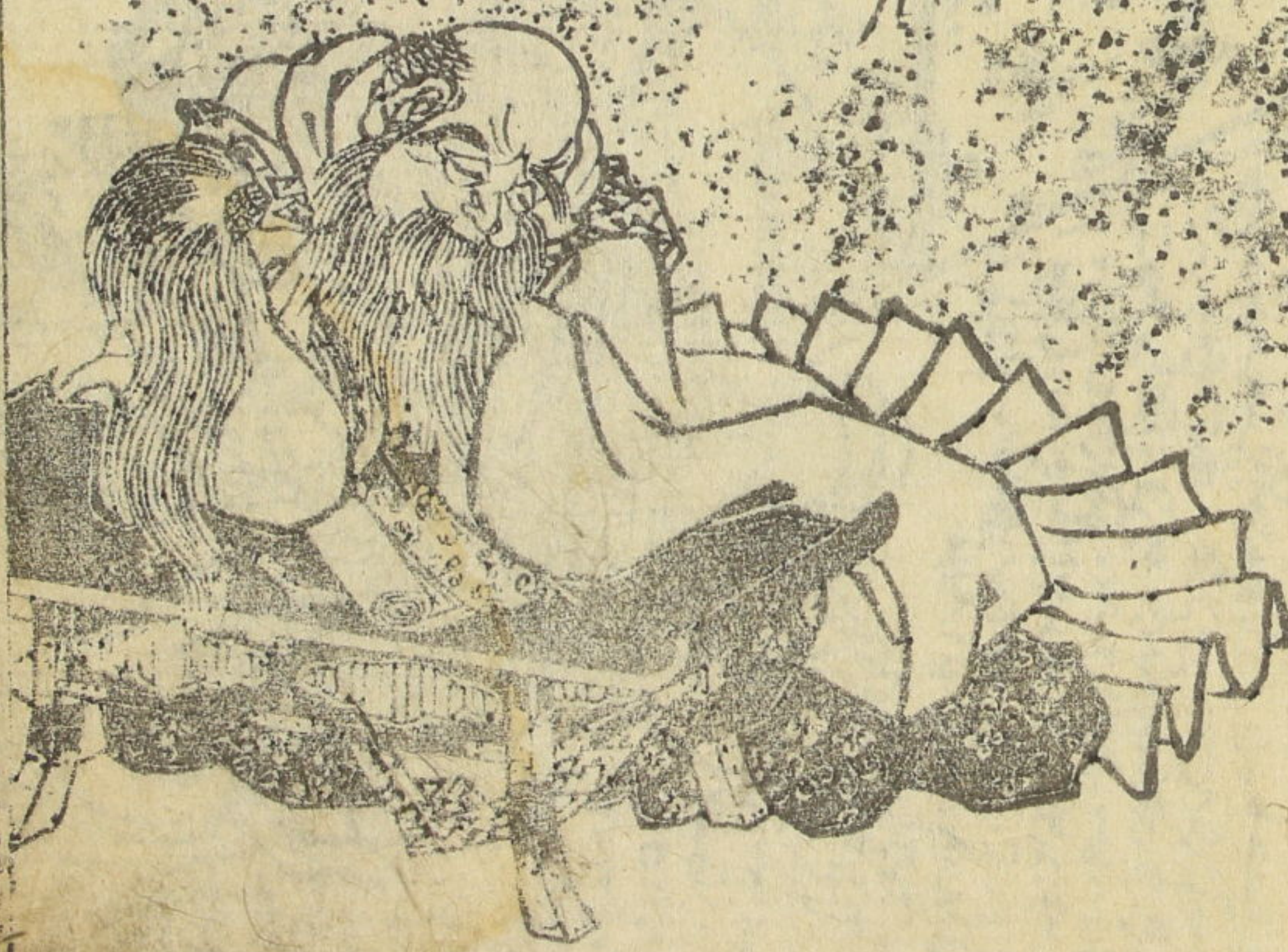
優陀夷の
女房

悉達太子

あつた
文の獅子
鬘頭皆弗



密の君
密須密
女



南海國
那羅城
王子
諸國
修行

倭文體世



田口うさぎのいふ言
 のふちひるるとか
 こころなりとちか
 たての女房のいふ
 あまのつれごと
 つれごとあまの
 うさぎのいふ言
 こころなりとちか
 たての女房のいふ
 あまのつれごと
 つれごとあまの

この女房のいふ言
 のふちひるるとか
 こころなりとちか
 たての女房のいふ
 あまのつれごと
 つれごとあまの



宮中へ入るに
 名を
 宮中へ入るに
 名を
 宮中へ入るに
 名を

この女房のいふ言
 のふちひるるとか
 こころなりとちか
 たての女房のいふ
 あまのつれごと
 つれごとあまの



佐々木 五

安政三年丙辰春新板目錄

倭文庫	赤松譚	重井菱	譚柄瑠璃	茶番案文	神代とて月茶	重本類錦繪
三十四編 三十五編 三十六編 三十七編	九編 十編	六編 七編	四編 五編	全冊	三編 四編	人形
萬亭應賀作	如洲外史作	為永春水作	西澤一鳳作	萬亭應賀作	同	上州屋重藏
陽齋豊國画			陽齋豊國画	陽齋豊國画	陽齋豊國画	



豊國画 應賀作

Illustration of a woman in traditional Japanese attire, likely the artist or a related figure. She is wearing a patterned kimono and has her hair styled in a traditional manner. The illustration is framed by text.

△おもあるまゝなる不それてあつたはせんが
 せいふをよまふふくしのうくをふりかひのち
 ちかしのあごころをとももふふふふふふふ
 さうがとをりあつともふ西とあつた
 らうあつとけのたを
 さうあつとけのたを

①ふりかひのち
 あつとももふふふふふふ
 さうあつとけのたを

